理事長あいさつ

公益財団法人 岩手県スポーツ協会
副会長兼理事長　谷　藤　節　雄

今回は次の３点を話題として皆さんと共に考え、今後の活動の参考にできればと思っています。

【第 79 回国民スポーツ大会での戦いから】

わた SHIGA 輝く国スポ 2025 では、団体２競技、個人４名が表彰台に立ちました。優勝したホッケー競技少年男子、準優勝した卓球競技少年男子の試合を観戦しましたので報告します。

ホッケー競技岩手のウオーミングアップは初戦から決勝まで、選手・スタッフ全員が声を出して、びっくりするほど盛り上がっていました。チームゲームで自分の気持ちを相手に伝えることは大切なことです。「自分は気持ちが入っている、精一杯頑張っている。」と心の中で思っていても相手には伝わらないこともあります。単純ですが、声に出してチームメイトに伝えることも大切と思います。選手同士も選手とスタッフも同じ、試合に向けての戦備、盛り上げ方がとても参考になりました。

卓球競技では、ミスしてしまった時の選手・監督の表情が印象的でした。岩手チームはミスしてしまった時、試合している選手も他の選手・監督も全くの無表情でした。攻めに出てポイントしたときには大きな声を出し喜びを全身で表現していましたが、ゲーム中、一瞬でも失敗したという表情を見ることはありませんでした。失敗したことよりも、すぐさま次の行動（作戦）を考えているのだと思います。素晴らしい精神力を備え、悔やんでいる暇はない、堂々とした一流の戦い方を感じました。そういえば、大谷選手の「失敗したなぁ」という顔も見たことがないと思いました、通ずる点があるのでしょうか？応援マナーも勉強になりました。得点＝喜ぶではなく、台の端（エッジ）にかすって得点できた場合には、相手に手を挙げて一礼。応援団も同じ表情、スポーツマンシップの精神も再確認できました。

【中高生の特別活動の活動率】

本県では、中学生の部活動加入率 100％の時代が長く続きました。全員加入のルールがあり、部活動を通して活力のある学校生活がつくりあげられてきました。現在は、国の施策により部活動が生徒の自主的・自発的な参加によることとなり、活動の場を地域に求める生徒も多くなってきました。中高の学校部活動が任意加入になって地域を含めどんな活動をしているのか？活動の状況を検証していく必要があります。

私達は、地域で活動の選択肢を確保し、スポーツ・文化芸術活動に取組む生徒を沢山育てる環境にしていかなければなりません。少子化が進み、加えて更に活動率が下がってしまっては競技人口の確保ができなくなってしまいます。

【競技団体の組織力向上】

先日ある方が来局し、相談を受けました。

自分は、転勤族で全国を異動してきた、スポーツが好きで今でもマスターズ大会に参加している。赴任した県で地元の競技団体に所属して協力したいと考えたが、なかなかそのきっかけがつかめずにきた。初めて声をかけてくれたのが岩手県の水泳連盟だった。転勤等の都合で岩手県に赴任した人材を活用できるよう県スポーツ協会で考えてくれないだろうか？そんな取組が出来たら素晴らしい、他の県にもないことである。というものでした。

岩手に異動してきて選手や審判、役員として活動したい方が各競技団体と結びつくよう県スポーツ協会としてもその方法を模索していきたいと考えています。各競技団体でもホームページ等でその受付窓口を開設するなど検討をお願いします。

【つぶやき 子供会活動でプロチームを応援】

今はどこにでも家族で出かけられる時代になって、PTA や子供会活動等への参加者確保に苦労されているという話を聞きます。一案としてプロチームのスポーツ観戦はいかがでしょうか？演出の素晴しさや一体感から、みんなが楽しいという感覚を味わってみては？選択肢としてご検討ください。